

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ヒオドシチョウ	タテハチョウ科	橙と黒の印象的な模様 表と裏の大きな違い	x	x	△	全国

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食草 ○ 食樹						発生回数/年		越冬形態			
エノキほか						1		成虫			



川崎市生田緑地 6月5日 (2011年) 翅は開いてくれない



川崎市生田緑地 6月3日 (2019年) 8年ぶりの生田緑地で



コヒオドシ：ヴェズレイ フランス 7月3日 (2018年)  
日本の本州では山地性の蝶だが、緯度の高いフランスでは平地にいる。フサフジウツギで吸蜜



クジャクチョウ：ヴェルサイユ フランス 7月20日 (2008年) コヒオドシと同様

1年に1回出てきますが6月頃に羽化すると、すぐに冬眠ならぬ「休眠」してしまうので運が良くないと羽化直後のタイミングで見ることはできません。休眠したまま成虫で越冬し、再度活動を始めるのは翌春という奇妙な生活パターンを持っています。

ヒオドシ《緋緘》は戦国時代の鎧（よろい）の編み方のひとつ。平家物語に出てくる那須与一のは、「モエギオドシ《萌黄緘》の鎧着て・・・」でした。生田緑地で2011年に羽化したと思しき個体を撮って（写真上）以来、2019年（写真中）に至るまで目撃すらしませんでした。

裏が殆ど黒なのに対して表は随分派手な色調、模様です。同じタテハチョウ科の「コヒオドシ」や「クジャクチョウ」（いずれも本州では山地性の蝶でこの付近では見られません）にもこの傾向があります。



長野県南佐久郡 7月13日（2002年） 配色、デザインともに渋い



川崎市 5月30日（2019年） 逆光でうっすらと裏から見える緋色